

# 特集 未来のために今つながる

## 北海道の未来を輝くものとするため、

## 自治体同士が手をつないでいます。

急速に進む人口減少や少子・高齢化の中で、市町村の行政サービスを持続的に提供していくためには、自治体間の広域連携がこれまで以上に重要となっています。

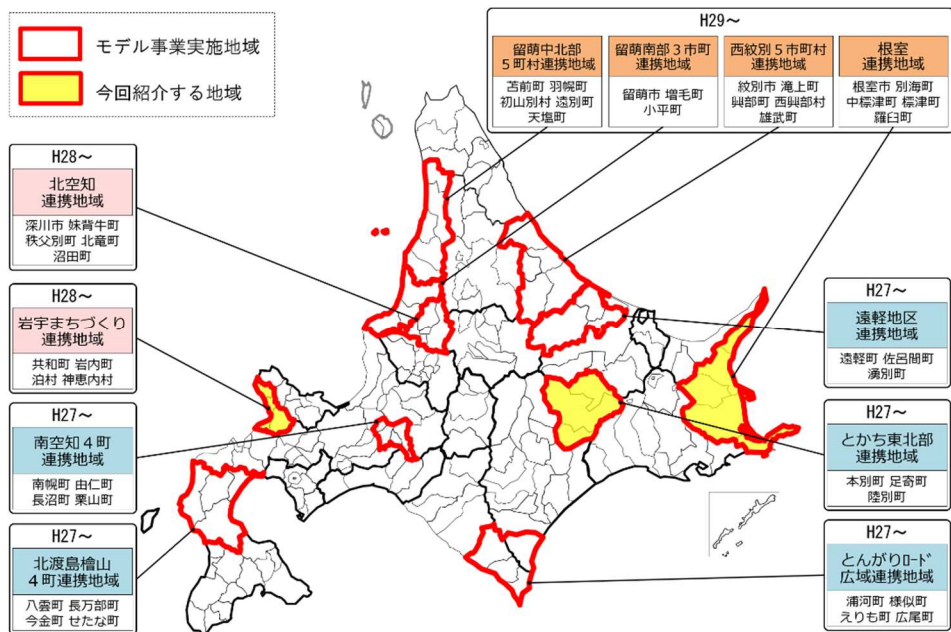
このため、北海道では「市町村連携地域モデル推進要綱」を策定し、道内市町村の広域的な連携の取組を支援しています。今回の特集では、全道各地で進行中の特徴的な取組の中から、3地域の取組を紹介します。

### 市町村連携地域モデル事業とは？

地域における住民生活に必要な機能を確保するとともに地域の活性化を目指して市町村が連携する取組としては、国の進める定住自立圏構想があります。

しかし、広大な地域に多くの小規模市町村が分散する北海道では、定住自立圏の要件を満たすことができず、制度の対象とならない地域も多くあります。このような地域における広域的な取組を支援するため、北海道では医療や福祉、産業振興など幅広い分野で複数の市町村が連携する新たな取組に対して、最大3年間にわたり1市町村あたり500万円を上限に支援を行う「市町村連携地域モデル事業」を平成27年度から行っています。

現在では、あわせて11の地域、45市町村で様々な連携事業が進行中です。



## 根室連携地域



ねむろ 根室市



べつかい 別海町



なかしべつ 中標津町

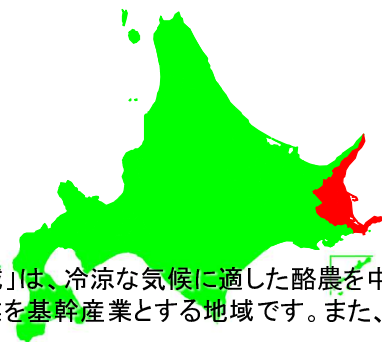


しべつ 標津町



らうす 羅臼町

根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町の1市4町で構成する「根室連携地域」は、冷涼な気候に適した酪農を中心とする農業と、太平洋・オホーツク海双方に面した豊かな漁場に育まれる水産業を基幹産業とする地域です。また、知床世界自然遺産に代表されるように、自然環境にも恵まれています。



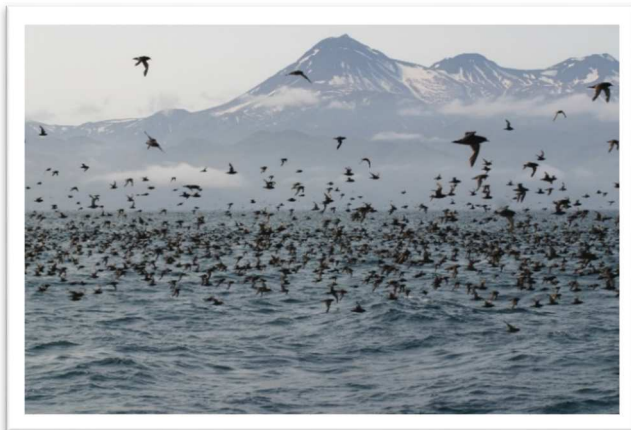
人口減少に対応した新しい地域社会の創出をめざして

根室連携地域は、雄大な自然に加え、農産物や水産物を中心とする豊かな食が存在するなど、本道の大きな強みと言える「北海道価値」にあふれています。地域の1市4町は、連携してこれらの地域の魅力をPRし、農業の担い手確保や移住・定住の促進、さらに広域観光の推進へとつなげるため、平成29年1月に連携協定を結び、3月に連携ビジョンを策定、さまざまな取組を進めることとしました。



▶ 根室市春国岱

◀ 根室海峡のミンナキドリ



**地域振興へ大学生のアイデアを活用**

根室連携地域の取組のひとつに、大学の「知」と学生のアイデアを地域振興へつなげることを目的とした、大学のゼミ合宿等の誘致事業があります。大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の住民などとともに地域の課題解決やまちづくりに取り組む「域学連携」の取組が近年増加しています。しかし、根室連携地域内には大学がないことから、北海道内や首都圏等の大学に対して、ゼミ合宿を地域に誘致し、根室地域の課題に関する調査研究を委託することにより、域学連携の取組を進めることとしました。

**ゼミ合宿の誘致**

連携地域では平成26年に「インカレねむろ事業推進協議会」を設置し、協働でゼミ合宿の誘致活動を行ってまいりました。ゼミ合宿は、大学生に最低3日以上根室地域に滞在し、研究テーマに沿ったフィールドワークをしてもらうもので、ゼミ合宿において得た資料をベースに研究をとりまとめ、その成果は報告書にまとめるとともに研究発表会を開催し、地域へ周知しています。

平成29年度は北海道大学など道内3大学と阪南大学（大阪府）の学生を受け入れたほか、新たなモデルとして、民間コンサルタントを活用し、地域に共通する課題である「酪農業の担い手不足」及び「中標津空港を活用した地域振興」をテーマとしたゼミ合宿式研究を明治大学と中央大学に委託し、実施しました。

**研究発表会の開催**

根室地域で得られた研究成果を地域に幅広く還元するためには、研究発表会が欠かせません。平成29年度の研究発表会は、研究を行った大学生のほか、地域の経済・観光関係者、高校関係者などが参加し、平成30年2月24日に別海町で開かれました。

別海町で酪農の短期就業体験プログラムによる研究を実施した明治大学の

学生は、シングルマザーに対する別海町への移住支援と酪農ヘルパー等への就業を呼びかける「酪農女子（ラクジヨ）育成制度」の創設により、酪農支援と母子支援、ひいては人口減少対策にもつながる取組を提案しました。

また、標津町で観光客を対象とした調査を行い、地域の魅力発信について研究を行った阪南大学の学生は、地域への観光客の多くが広域で周遊する観光客である実態を明らかにし、星空体験など夜間の体験ツアー実施による宿泊客獲得策や、SNSの活用による若年層への地域の魅力PR策を提案しました。

これらの研究は報告集としてとりまとめられ、地域の自治体や公立高校などに配布されています。



▶ 別海町で開催された研究発表会

**連携の成果について**

ゼミ合宿による域学連携の取組を1市4町で連携して進めることのメリットとして、ひとつの町では受け入れ難い場合でも地域全体で柔軟に対応する仕組みを作ることができる点や、連携を図ることによって広域的なPRを行うことができ、交流人口の拡大につながる点が挙げられます。

根室連携地域では、この取組の実施により、地域に住む人々だけでは気付くことができなかった魅力や財産の発見に繋がるとともに、地域のみでは解決できなかった問題の解消にも期待ができると考えており、今後は地域で合宿や調査研究を行う大学を増やしていくとともに、受け入れた学生に再び観光客として訪れてもらうことにより、観光入込客数の増加にもつながっていくこととしています。

連携地域名：根室連携地域  
 構成市町村：根室市・別海町・中標津町・標津町・羅臼町  
 連携協定締結：平成29年1月27日  
 連携ビジョン策定：平成29年3月  
 連携項目：産業振興（広域観光・農業の担い手確保）  
 地域内外住民交流・移住促進  
 行方事業交付額：平成29年度 14,300千円

## 岩宇まちづくり連携地域



きょうわ  
共和町



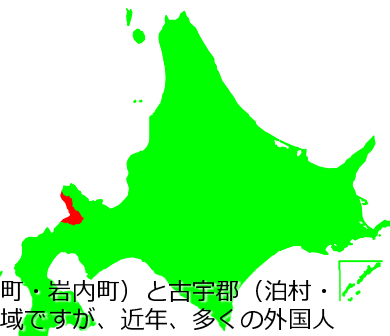
いわない  
岩内町



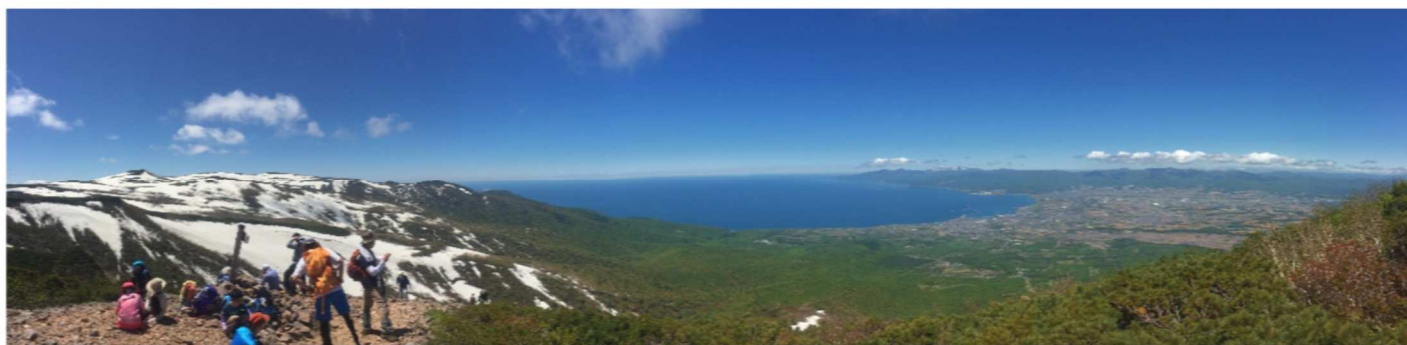
とまり  
泊村



かもえない  
神恵内村



「岩宇まちづくり連携地域」は、北海道の南西部、積丹半島西側に位置し、岩内郡（共和町・岩内町）と古宇郡（泊村・神恵内村）の4町村で構成される地域です。農業や漁業を基幹産業として発展してきた地域ですが、近年、多くの外国人観光客等が訪れるニセコエリアに隣接しているほか、北海道新幹線の札幌延伸や北海道横断自動車道（倶知安～余市間）の整備が進められており、今後、交流人口の拡大が期待されています。



▲岩内岳9合目から望む岩宇の風景

### 連携による地域の活性化をめざす

岩宇まちづくり連携地域では、今後の人口減少が全国や全道平均を上回るペースで進んでいくことが推計されています。

これまで、医療や福祉などの分野において4町村連携による取組を進めてきましたが、「地域の活性化と誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり」を目指し、地域の魅力を生かした広域観光や地場産品の振興、次代を担う子どもたちの人材育成など、新たな連携にも取り組むこととしました。

そして4町村は平成28年6月に連携に関する協定を結び、12月に地域連携ビジョンを策定、取組をスタートさせました。

### 地域の「幸」を活用して「当地グルメ開発」

岩宇地域が連携して取り組む事業の一つに「ご当地グルメ開発」があります。

地域にはスイカやメロン、サイトコーン、そしてウニ、ナマコ、ホタテ、たらこなど、豊富な山の幸・海の幸があり、これらの良質な幸を活用したご当地グルメの開発は、地域の魅力である美味しい食材を通じて、多くの人々に地域そのものを知ってもらおうきっかけづくりになると考えられます。

良質な一次産品の普及拡大と地域の

活性化を図るため、美味しさはもちろんのこと、見た目のインパクト、ネーミング、手軽さ、サプライズ度など、「足を運んでも食べてみたい」と思ってもらえるような、最強のご当地グルメの開発に取り組むこととし、この地域ならではの食材を生かしたご当地グルメコンテストを実施することになりました。



▲らいでんブランドで知られる共和町の農作物

### グランプリは「イモナンテス！」

平成29年1月、「岩宇地域のご当地グルメを作るのは君だ！」という見出しが躍るチラシを作成し、グルメコンテストの募集がスタートしました。

地域の幸を活用したご当地グルメコンテストには、91件の応募があり、料理専門学校の講師や料理愛好家などの審査の結果、グランプリ（最優秀作品）に選ばれたのは、共和高校の生徒

「イモナンデス！」の商品展開へ  
 岩宇まちづくり連携地域では、新しいご当地グルメ「イモナンデス！」を多くの人々に知ってもらうため、積極的なPR活動を行っています。  
 平成29年度は「神恵内沖揚げまつり」や「共和かかし祭」など、地域のイベントで試食を行ったほか、11月に



▲ご当地グムコンテストの募集チラシ

3名が考案した「イモナンデス！」でした。  
 「イモナンデス！」は、見た目はインド料理などでおなじみの「ナン」ですが、生地に地域特産のじゃがいもをたっぷり練り込んでいるためモチモチとした食感と、砂糖やバターを加えなくてもほんのりと甘く、発酵にヨーグルトを使うことで更に甘みと酸味が増して味に深み加わっているといった特徴があります。  
 家庭にある材料でフライパンを使って簡単に作ることができ、さまざまな料理と付け合わせることで更なる発展が可能な点も審査員から高い評価を受けての受賞となりました。



▶カレーとあわせた「イモナンデス！」

は考案者の共和高校の生徒たちも参加し、札幌市内で300食を無料提供し、試食調査を実施しました。そして、食の専門家と「イモナンデス！」の試作・試食を通じた勉強会を開催し、地元飲食店等とのタイアップに向けた取組も進めてきました。  
 連携事業3年目となる平成30年度は、単に普及にとどまらず、「イモナンデス！」を有効に使って、いかに地域振興へ生かすことができるかを模索する年として、様々な事業を展開していきたいと考えており、具体的には、「商品化に向けた検討」「岩宇地域内外での物販イベントでの提供」「『イモナンデス！』と地域の一次産品を組み合わせたメニュー開発」「地元の小麦とジャガイモを生かした『イモナンデス！』普及の仕組みづくり」「学校給食での提供」などの取組を進め、将来的には「岩宇ご当地グルメ『イモナンデス！』」と言ってもらえるよう、チャレンジをしていきたいと考えています。



▶札幌市における「イモナンデス！」のPR (平成29年11月)

連携の効果について

4町村は、これまでいろいろな場面で自治体単独、あるいは連携して岩宇地区をPRしてきましたが、「岩宇」の知名度が高くなる、また、地域共通の産品がないことから、プロモーション活動に苦慮する場面が多くありました。  
 今回、この連携事業により、各町村の名物と組み合わせ可能なご当地グルメ「イモナンデス！」が完成することにより、今後、岩宇地域をより効果的にPRすることができるようになることを期待しています。



▲岩宇まちづくり連携地域のロゴマーク

連携地域名：岩宇まちづくり連携地域  
 構成市町村：共和町・岩内町・泊村・神恵内村  
 連携協定締結：平成28年6月28日  
 連携ビジョン策定：平成28年12月27日  
 連携項目：医療・福祉・教育・産業振興・  
 地域公共交通・交通インフラ整備  
 地域交流促進・移住促進  
 行事業交付額：平成28年度 18,400千円  
 平成29年度 19,200千円

## とち東北3町連携地域



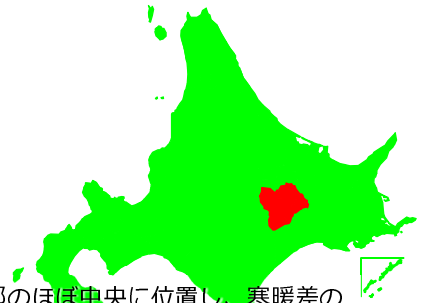
ほんべつ  
本別町



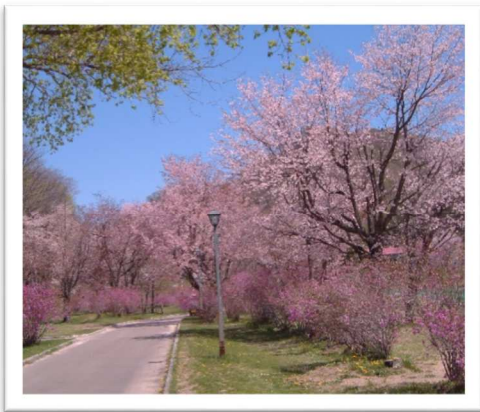
あしよろ  
足寄町



りくべつ  
陸別町



本別町、足寄町、陸別町の3町で構成する「とち東北3町連携地域」は、北海道東部のほぼ中央に位置し、寒暖差の極めて大きい内陸性気候を生かした農林業を主産業とする地域です。また、今後、道東自動車道の整備が進むことで、十勝と釧路、オホーツク圏を結ぶ交通の要衝として、地域経済の発展に向けた大きな可能性を秘めた地域です。



▲本別公園の春



▲足寄町の紅葉



▲陸別町の「しばれ」

「住みたい、住み続けたい」地域を  
目指して

とち東北3町連携地域では、それぞれのまちの魅力を生かしながら、圏域内で必要な生活機能を確認し、移住・定住を促進するとともに、圏域としての「絆」をもち、将来にわたって「住みたい、住み続けたい」と思える地域づくりを目指し、産業振興と移住促進を連携項目とした取組を進めています。

### 空き家を活用して移住・定住を促進

3町が、地域への移住促進を進めるために注目したのは「空き家」です。平成2年には連携地域の人口は約2万5千人に上りましたが、過疎化や高齢化に伴い、平成27年には約1万6千人に減りました。この影響で、空き家の数も年々増加しており、平成29年には842件に達しています。

この増え続ける空き家を、3町では「移住・定住につなげるための有効資源」として位置付けることとしました。移住希望者にとって、移住先での住まいの確保は重要なポイントですが、もう一つ重要なのが、仕事です。3町圏域に長く住み続けていただくためには、住まいと仕事の両面をサポートしていくことが有効な手段と考え、

農業などの基幹産業や関連する地域産業を支えるための仕事づくりも並行し、進めていくこととしました。

### 移住希望者受入体制の構築

3町は平成28年3月に連携地域域ビジョンを策定すると、まず、空き家の実態調査や空き家の活用基準の統一化に向けた協議を進め、利活用可能な空き家のデータベースと求人情報を統合したシステムの開発を共同で進めました。

さらに、平成28年7月には本別町役場内に「とち東北3町移住サポートセンター」を設立、専任のアドバイザーを置き、移住希望者からの相談や受け入れなど必要なサポートを行う体制を整えました。

平成29年3月には、移住希望者の「仕事と住まい」双方のニーズに対応可能な求人・空き家情報システムが稼働し、とち東北3町移住サポートセンターのホームページでの公開が始まりました。これにより、移住希望者が家族構成や暮らし方に合致する物件と地域の求人情報をインターネット上で手軽に検索することが可能となりました。

しかしながら、空き家を活用できる物件は、内部の家財道具や物件の相続など課題も多く、まだまだ多くない